

人とみどりとの共生に向けて

ランドスケープ・ダイバシティとランドスケープ・リテラシー

令和5年11月1日(水)

國學院大學 観光まちづくり学部
下村 彰男

本日、話したいこと

【期待すること】 東京都民が「みどり」の管理に参加しつつ、多様な自然と豊かに触れ合うような、共生社会を実現する。そしてそのことを通して、東京に暮らすことの誇りや愛着を感じ、ふるさと意識(帰属意識)が醸成されていくような状況を創る。

そのために必要なこととして、以下の点があげられるのではないか

1. 東京都には多様な自然があり、江戸・東京はそれらに支えられて発展してきたことに対する認識を高める。
2. 現在の「みどり」にも、エリアや場所の特性や歴史を物語るものがあり、それらをはじめ「みどり」を地域資源として管理していく。
3. 「みどり」の持続的活用(管理)には適切な人為が必要であることに対する認識の向上と、地域コミュニティ再構築の拠点化を促す。

1. 東京(都)には多様な自然があり、江戸・東京はそれらに支えられて発展してきたことに対する認識を高める。

- ・ 2000m級の山地部から亜熱帯の島嶼部まで、多様な自然に恵まれている
- ・ 江戸・東京は、それらの自然に支えられてきた歴史がある

他府県に比して非常に多様な自然に恵まれていること、そして、歴史的には、これらの自然に深く支えられてきたことを、都民はあまり認識していないのではないか



東京には山も海も、そして島も..

標高: 2017(雲取山) ~ 0m

山岳、丘陵、台地、低地

冷温帯 ~ 亜熱帯

南北: 1700km

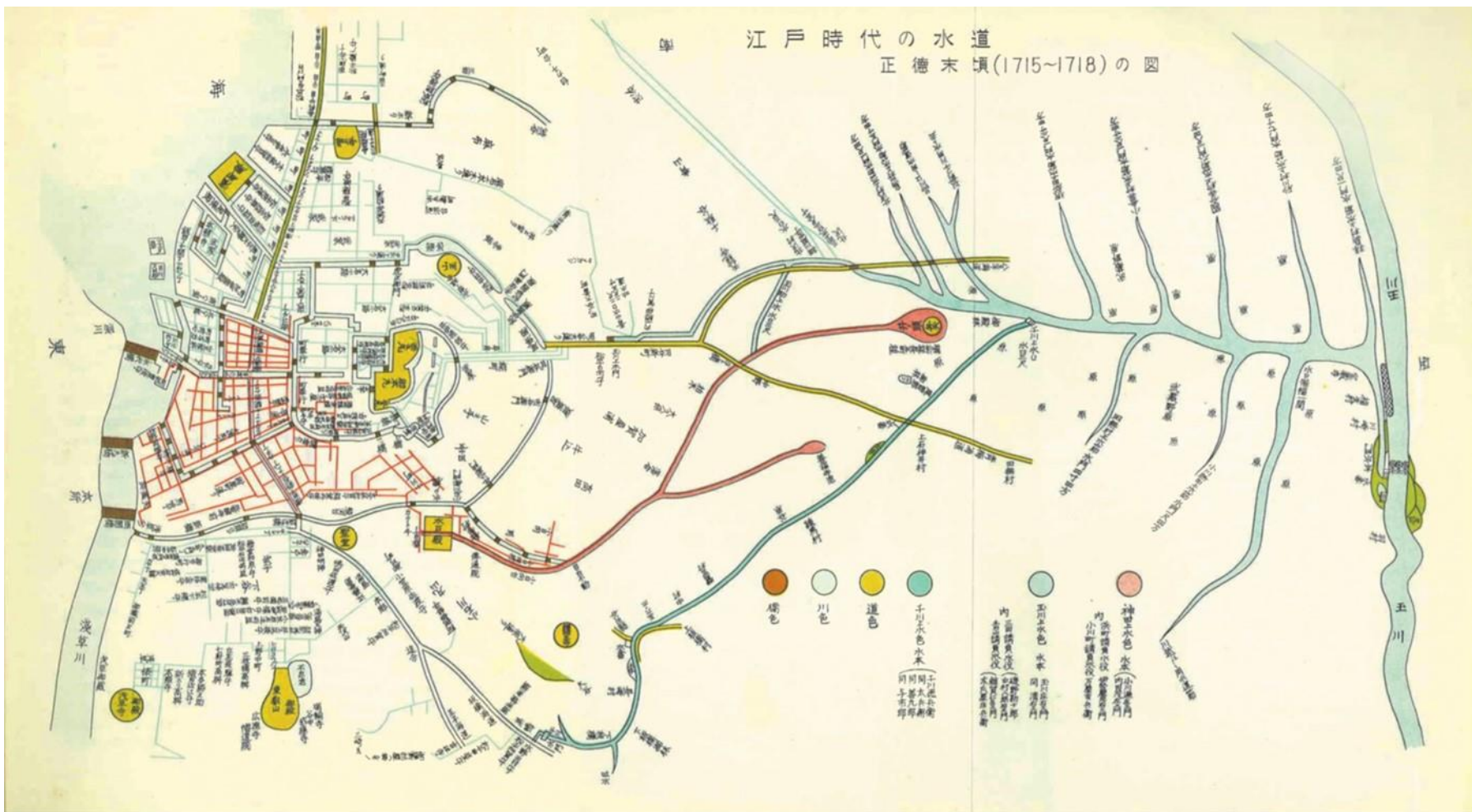
東西: 1600(90) km

(資料) 東京都生物多様性地域戦略

山のエリアに支えられ、深く関わってきた

：山の恵み

(水、木材、炭、石灰(漆喰)、絹・・・)



(資料): 東京市史稿 上水篇 第一 (1715~1718年頃)
東京都公文書館 所蔵

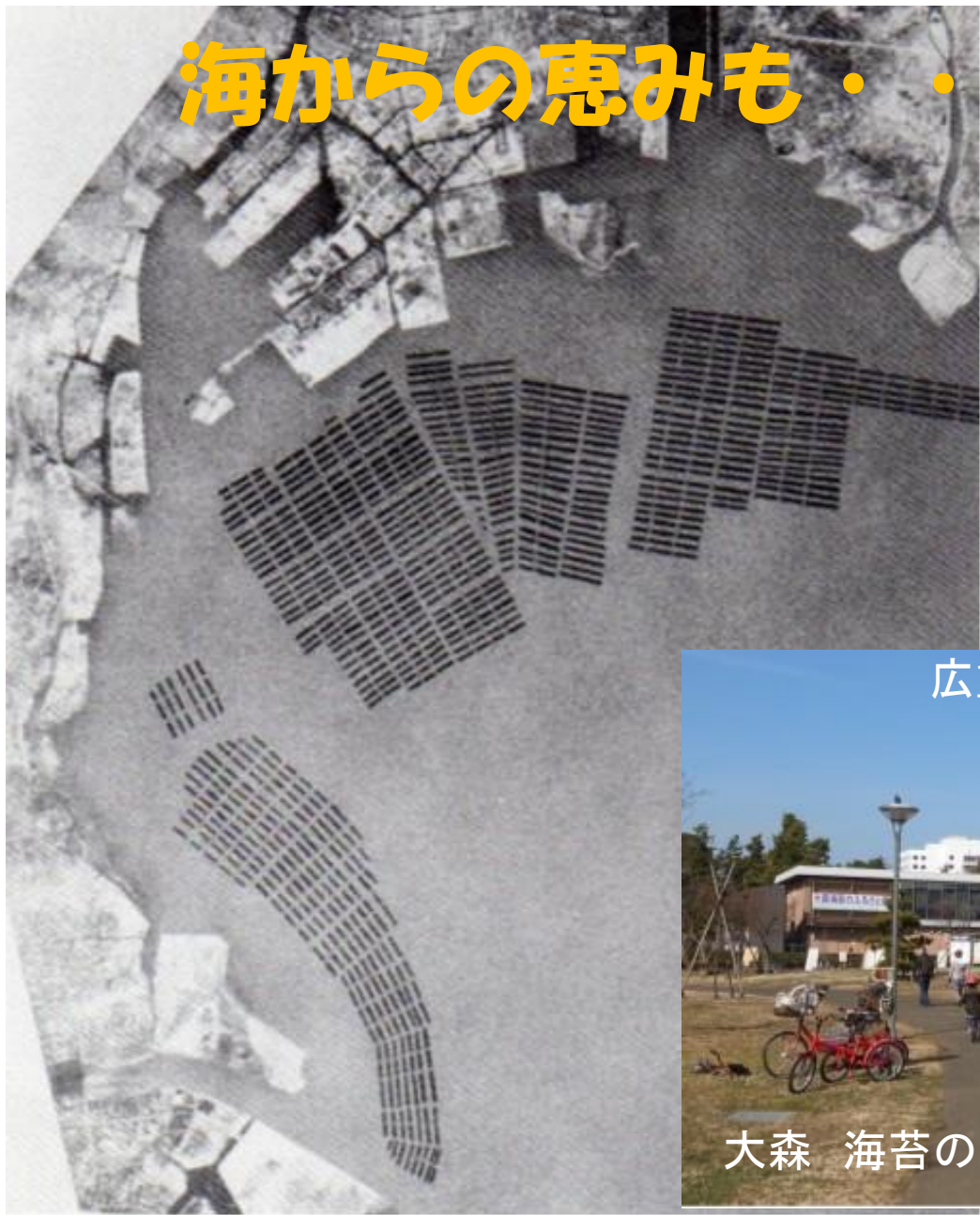


木材(青梅林業)
(資料) 歴史 (akigawamokuzai.or.jp)



木炭 (資料) 五日市郷土館

海からの恵みも・



広重：江戸名所百景(南品川)



現在の東京港
資料：東京都港湾局



大森 海苔のふるさと館



海であった埋立地に、淡水と緑の公園

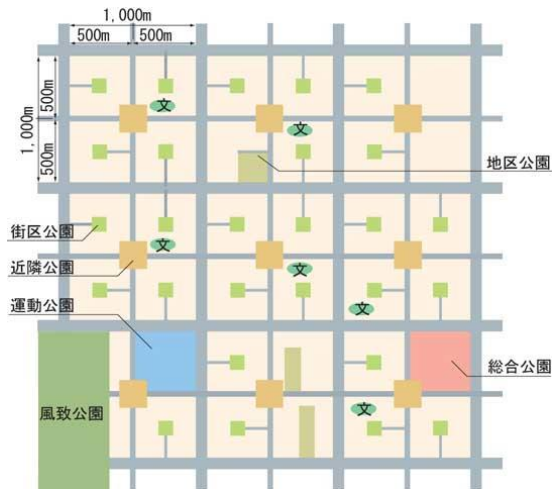
1960年頃の東京港の様子 資料：大田区海苔物語(東京内湾漁業興亡史)

2. 現在の「みどり」にも、エリアや場所の特性や歴史を物語るものがあり、それらをはじめ「みどり」を地域資源として管理していく。

- ・ ランドスケープ・ダイバシティ：各々の場所の文脈継承による多様性
- ・ ランドスケープ・リテラシィ：各文脈の読み取り・伝達

「みどり」を、単なる自然として一様に捉えるのではなく、地域文脈を継承・伝達する存在・場として位置づけ、管理捨てゆくべきではないか。

【緑のオアシス】



<https://www.city.sapporo.jp/ryouka/shiryo/toukei/syurui.html>

- ・ 自然との触れ合い機会の量的確保が重要課題
- ・ 全ての人に公平に提供
⇒ 均質性



(資) 上野花見図屏風【江戸】



(資) 上野博覧会の図【明治】



【地域資源】



立地地形 KASHIMIR 3D



博物館・展示

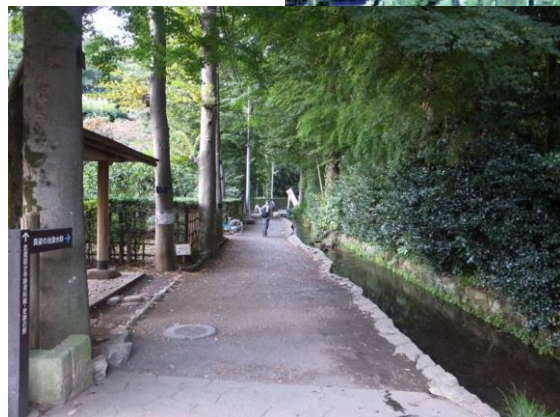
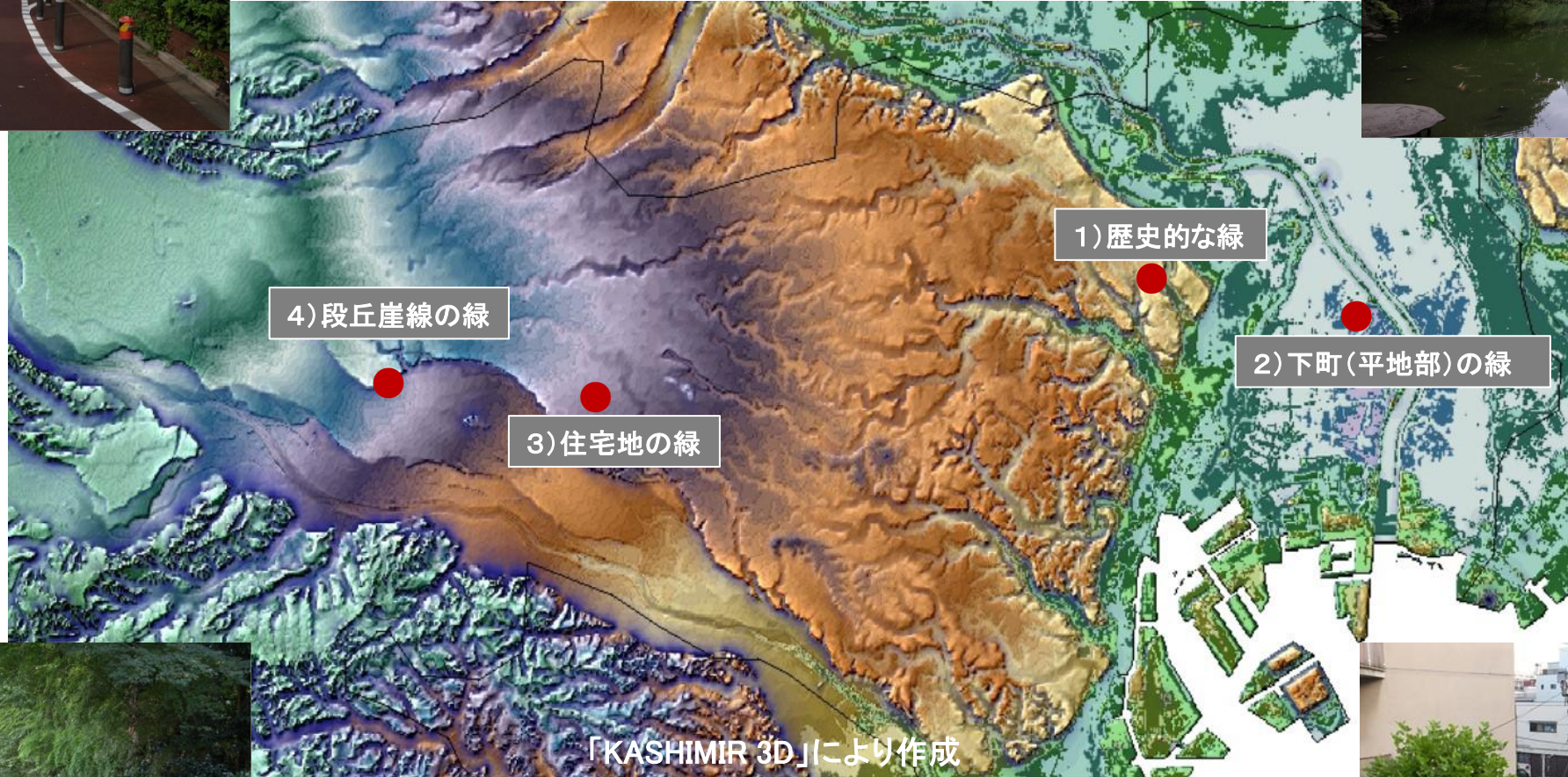
東京の地形と歴史と緑



3) 三鷹
(沿道の庭木)



1) 東大育徳園
(三四郎池)



4) お鷹の道
(国分寺崖線)



2) 下町の植栽
(プラタナス)

(資)都市森林の文化性:
「(台湾)林業研究専誌」より作成

1) 斜面地に立地していた大名・華族の屋敷庭園を継承した緑 (東京大学)



「江戸御上屋敷絵図」1840-1845年
(金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵)



育徳園(三四郎池)



懐徳館庭園(名勝)

2) 震災(関東大震災)の記憶をとどめる植栽(樹種)や緑地



『東京市教育施設復興図集』1932年 東京市

小学校に隣接した復興小公園

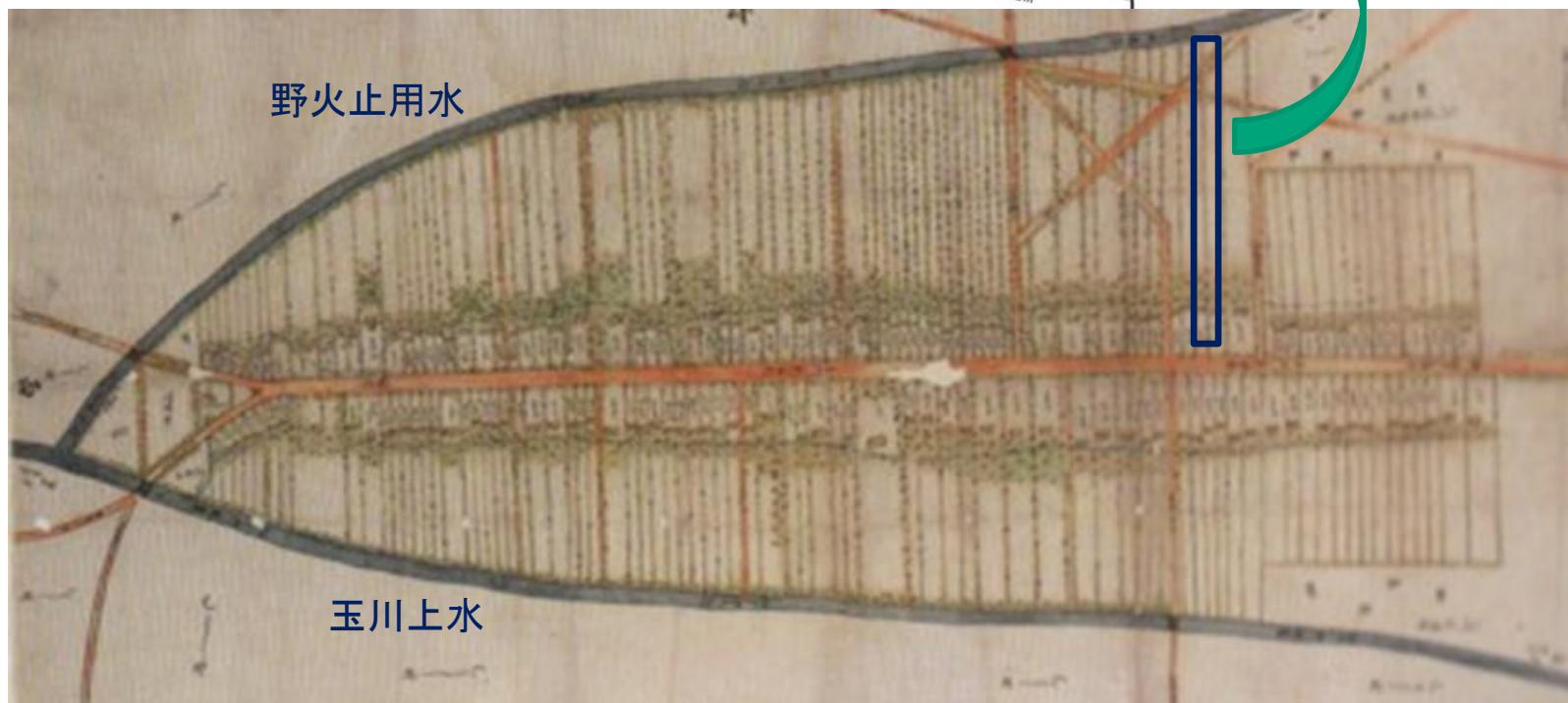
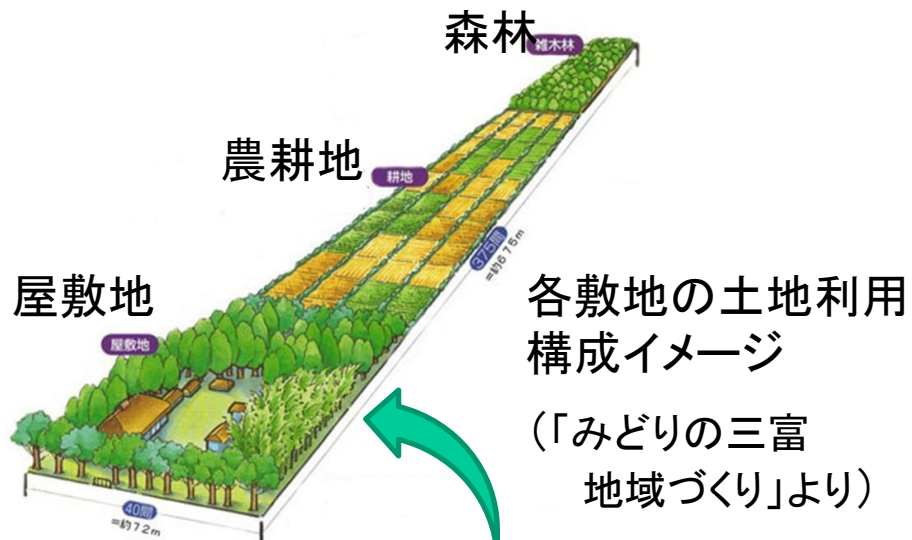


プラタナスの街路樹



プラタナスの公園植栽

3) 武蔵野台地の新田開発からつながる緑(庭木の緑の直線的連続性)



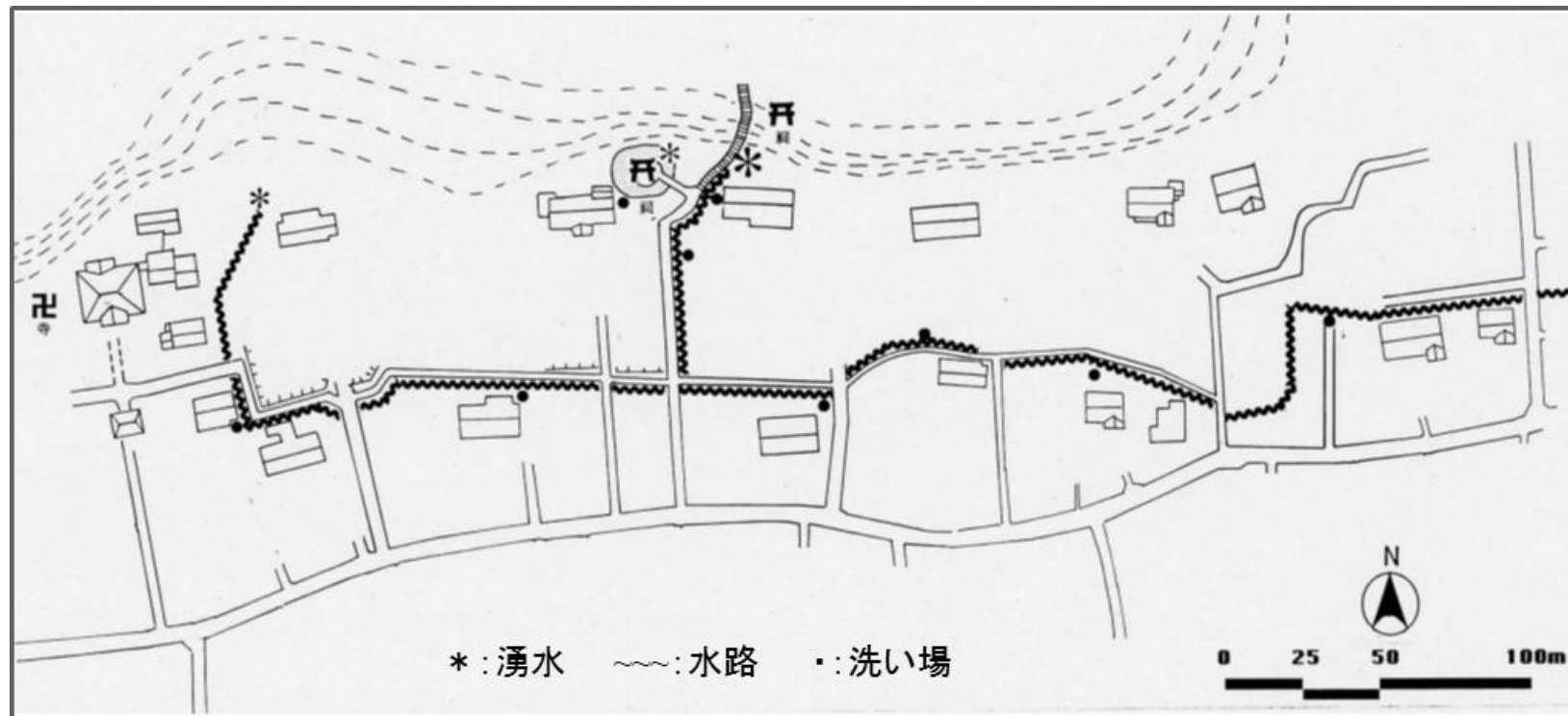
新田開発の区画が長い直線的街路に残る



宮本小路公園(吉祥寺)に解説板 (Google)

小川村短冊形地割図(「小川家古文書」1674年頃より)

4) 郊外・崖線域における暮らしを引き継ぐ水路と斜面地の緑



ハケ下の集落構成(国分寺)

資料: 松本浩「東京西部における伝統的農村集落の湧水と水路を軸とする空間構造に関する研究」
1997年: 東京大学農学生命科学研究科・修士論文

ハケを取り巻く暮らしについても、
もっと伝えた方がよいのではないか



3. 「みどり」の持続的活用(管理)には適切な人為が必要であることに対する認識の向上と、地域コミュニティ再構築の拠点化を促す。

- ・ 「みどり」の管理には費用や担い手が必要で、人々の参加・協働が重要。
- ・ 公園や緑地に関する制度が大きく変わりつつある。

都市公園等の「みどり」を地域コミュニティ再構築の拠点としていくことで、「みどり」の管理に対する認識の向上や積極的な参加も期待できるのではないか。

原生自然環境保護
(人為の排除)

≠

二次的自然環境保全
(適切な人為の継続)

立入制限
建築規制
マイカー規制
等々



自然の営為に任せる ⇒
規制制度による人為排除



適切な管理のための
財源、担い手の確保

自然管理への参加
保全協力金の導入
等々

公園内で開かれるマルシェでは、その土地の資源等を発信するほかコミュニティ形成にも寄与

緑豊かな公園を借景に、周辺エリアのまちづくりも進展

民間の開発による広場と都立公園とが一体となり、エリアの賑わいや回遊性、緑の連続性、防災機能等が向上



エリアマネジメント団体による清掃等の公共的な活動が、地域の価値を向上

芝生に集まった多くの人たちは、リラックスしたり、四季折々の風景の鑑賞など、思い思いの時間を満喫

まちづくりとの連携のイメージ

公園や緑地、自然に求められるものが変化してきており、それに応じて、都市の公園緑地や自然公園の制度も大きく変わりつつある。

2017年：都市公園法改正
都市緑地法改正
2021年：自然公園法改正

(資料)東京都 [H29]:
都立公園の多面的な
活用の推進方策について

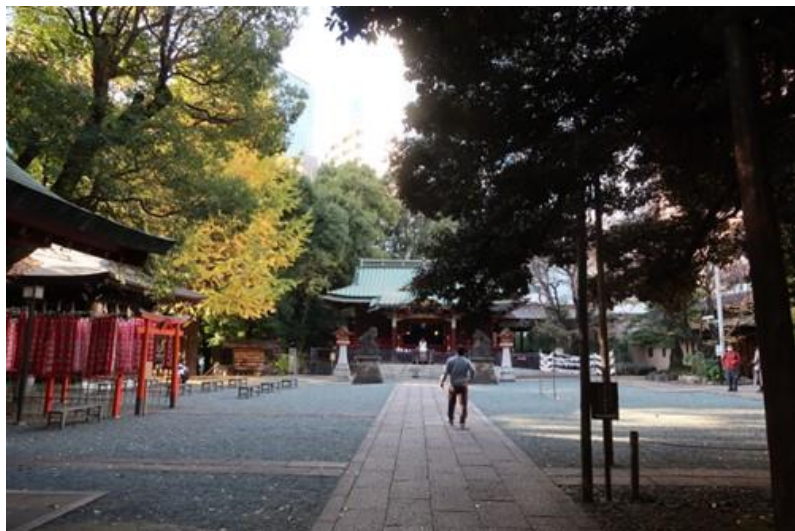
「みどり」を地域コミュニティ再構築の拠点としていくことの意義

地域コミュニティ
再構築の拠点化

地域への愛着・誇り
帰属意識の向上

管理に対する認識
の向上、主体意識

類似性や参考に
すべき点の検討



神社は、地域コミュニティの拠点としての機能、立地を有していた



公園等の「みどり」がそれを代替することはできないのか

